



平成 28 年 9 月 6 日

各 位

上場会社名 株式会社 ナイガイ
 代表者名 代表取締役社長 今泉 賢治
 (コード番号 8013 東証第一部)
 問合せ先 取締役管理部門担当 市原 聡
 (TEL 03-6230-1654)

平成 29 年 1 月期第 2 四半期連結累計期間及び通期連結業績予想の修正並びに
 営業外費用 (為替差損) の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 3 月 16 日に公表いたしました平成 29 年 1 月期第 2 四半期連結累計期間及び通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

また、平成 29 年 1 月期第 2 四半期連結累計期間 (平成 28 年 2 月 1 日から平成 28 年 7 月 31 日) において、下記のとおり営業外損失 (為替差損) を計上いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 1 月期 第 2 四半期連結累計期間 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日) の業績予想値の修正
 (連結) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	8,100	△70	△40	△60	△0 円 73 銭
今回修正予想 (B)	7,810	240	75	45	0 円 55 銭
増減額 (B - A)	△290	310	115	105	—
増減率 (%)	△3.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 1 月期第 2 四半期)	8,221	△105	23	6	0 円 08 銭

(個別) (単位: 百万円)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	6,100	△130	△120	△1 円 46 銭
今回修正予想 (B)	6,028	△13	△20	△0 円 24 銭
増減額 (B - A)	△72	117	100	—
増減率 (%)	△1.2	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 1 月期第 2 四半期)	6,198	△64	△54	△0 円 66 銭

2. 平成 29 年 1 月期 通期連結累計期間 (平成 28 年 2 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日) の業績予想値の修正
 (連結) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	18,000	320	360	300	3 円 65 銭
今回修正予想 (B)	18,000	510	360	300	3 円 65 銭
増減額 (B - A)	0	190	0	0	—
増減率 (%)	0.0	59.4	0.0	0.0	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 1 月期)	17,505	43	154	86	1 円 05 銭

3. 修正の理由

第2四半期連結累計期間の売上高は、卸売り事業の量販店販路及び通信販売事業のテレビショッピング販売が共に当初計画に届かず予想を下回りましたが、卸売り事業において、当初計画以上に仕入原価削減施策が寄与したこと、物流経費を中心に販売費を削減出来たため、営業利益は予想を大きく上回りました。経常利益は営業外費用に多額の為替差損を計上したものの、当初予想を上回る結果となりました。

通期の業績予想につきましては、売上高は百貨店販路の店頭販売とEC販売の拡大、OEM、ODM販売強化等、卸売り事業の増収により当初の通期計画を実行し、利益は、第2四半期連結累計期間の結果に卸売り事業の下半期の販売拡大に伴う販売費増等を織り込み、営業利益は上方修正いたしますが、円高基調のもと為替差損の発生を考慮し、経常利益以下の利益は当初どおりといたします。なお、個別の通期業績予想につきましては当初どおりです。

4. 営業外費用（為替差損）の計上について

平成29年1月期第2四半期連結累計期間（平成28年2月1日から平成28年7月31日）において、為替相場の変動により、為替差損197百万円を営業外費用に計上いたしました。これは主に当社が保有する外貨預金の為替差損と為替予約のデリバティブ評価損であります。第1四半期累計期間（平成28年2月1日から平成28年4月30日）において128百万円計上しておりましたが、その後も円高が進み、第2四半期会計期間（平成28年5月1日から平成28年7月31日）において、68百万円を追加計上いたしました。

*上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上